めて對象を決定し創造する事をとくそれなのであつた。彼自らの言葉を借りるならば、フイヒテの觀念論は「實踐的なる觀念論」なのである(譯書二四九頁)。その事を我々は忘れてはならない。

人は今しきりに實踐を說く。しかし實踐の深き哲學的根據を捕へ得た幾人の思想家があるであらうか。哲學が單なる解釋でなき事、それ自ら一つの「行」なる事を敎へる事フイヒテの如き人があつたであらうか。人は歷史の問題につき、社會の問題についてマルクスにききヘーゲルにきく。しかし眞の實踐を敎へるものはフイヒテではなかつたであらうか。

多年フイヒテの主著の飜譯に從事してゐられた友、木村氏の業なつて、西田先生の序文に惠まれて世に出でた。親しくその經過を知る私には、人事ならぬ喜が湧く。かつて上加茂なる君の家に共にフイヒテを讀んだ人々の內、淡野君は臺北に、相原君は奉天に、しかして君自らも廣島に移られた。我々の生活はあわただしかつた。しかしそれにもまして我が國の思想界の潮流はあわただしかつた。その目まぐるしい幾年かを君は丹念に知識學の飜譯に從つたのである。友人として私は此の書の完成を喜ばずにはをれない。いかにそれが些少のものとは言へ、自らも此の書に關係を有つ私はこゝに君の譯の良否を言ふ事は許されない。たゞ私は此の書の成立にあたつて、君がいかに良心的であつたかを人々に告げたい。此の譯書のいづれの頁にも、少くとも人は君の苦心の跡を見出す事が出來るであらう。私は此の書によつて一人でも多くフイヒテへの親密を得る事を切望する。

(高坂正顯)

彙報

心理學讀書會

一月二十三日金曜午後三時より心理學敎室に於て左の發表あり。

ゼームス　恒吉忠康君

青年の交友生活につき　脇勝嘉君

二月六日金曜午後三時より心理學敎室に於て左の發表あり。

「ハニカミ」と「ハヂラヒ」統計的研究による羞恥の序論的一研究　園原太郎君

社會的暗示作用　毛利敎丸君

倫理學會

二月七日夜樂友會館に於て左の講演あり。

アリストフアネスの作品　本學助敎授原隨圓君

印哲佛敎學會

二月四日夜樂友會館に於て左の講演あり。

世親の性格について　本學名譽敎授松本文三郎君

美學會

二月四日學友會館にて
繪畫と寫眞　藤井源一君
二月十四日學友會館にて
カントの美と崇高について　諏澤太郎君
散會後本年度卒業生懇餞會を對山閣にて開く。

寄贈雜誌

丁酉倫理會講演集　昭和六年二月　三四〇
大谷學報　同　一月　十二ノ一
教育問題研究　同　二月　五六
生理學研究　同　二月　八ノ二
信濃教育　同　二月　五三二
奈良縣教育　同　一月　二一三
顧慧　同　一月

寄贈圖書

密教概論　高神覺昇著　甲子社發行　金貳圓貳拾錢
草むる者滅ぶる者　安岡正篤著　金鷄學院刊　貳拾錢
歸農の英傑　市川五郎兵衛實親　菅原兵治著　同　院刊　貳拾錢

昭和五年度卒業論文題目

八〇

◎哲學專攻

コーヘンの論理に於ける法則的普遍の問題　佐藤省三
理性的なるものと現實的なるもの　渡邊良平
ベルグソンの自由論について　長谷川和美
行爲の道德性の先驗的原理　池山精一
フイヒテの自我　辛島紅葉
存在の概念に就いて　大石義信
ベルグソンに於ける物質の問題　佐々木孜
論理性の本質　自神昇藏
歴史的存在者としての個體の論理　杉崎三八郎
内と外の辯證法的双關對立（參考材料　寺尾勇
ヘーゲル精神現象學に關する一考察　山本義信
絶對知を論ず　来田俊一
歴史哲學の問題　大成功三
哲學體系の歴史的地位　稲葉秀三
實踐者の自覺　柴田和夫

◎西洋哲學史專攻

カントに於ける非合理性の問題　蜂須賀建吉
カント哲學に於ける統覺について　小林忠雄
Plotin の哲學に於ける宗教體驗　塚越千代巳

カントの合目的性　石田五郎
形而上學史に於ける認識問題に就いて　石森喜緑郎
文化の理解　石塚松司
純粹理性の二律背反　宮本清
純粹理性批判の經驗的實在性と先驗的觀念性　野坂純一郎
リツケルトの價値概念に就いて　岡本芳之助
ヘーゲルの Phänomenologie des Geistes について
——其 Vorrede を中心として——　岡本六郎
存在及び歷史に於ける個人の自由非自由の問題に就いて　李鐘雨
ハンスドリーシユに於ける秩序學より現實學への轉移　清德保男
カントの論文 "De mundi sensibilis atque intelligibilis forma et principiis"　反保光一
カントの構想力　矢野貞一

◎印度哲學專攻

龍樹以前に於ける時間及空間に就いて　江西寛

◎支那哲學史專攻

老子哲學の一考察　自井啓三

◎心理學專攻

交友關係より見たる青年の社交性　脇勝嘉
William James の心理學と其特長　恒吉忠康
「ハニカミ」と「ハヂラヒ」統計的材料による差恥の序論的一研究　園原太郎
暗示作用に就て若干の考察　毛利敦丸
睡眠について　宮城音彌
小學校兒童の記憶に就いて　北村正信
性格　富士川義彦

◎倫理學專攻

カント倫理學の「內容」について　小林長治
トーマス、ヒル、グリーンの「善」"Good" に就いて　井上雅夫
カントの道德性と道德　伊豫本一
道德の原理に就いて　正立敏丸
社會道德の存續と推移　森本眞
實踐に於ける非合理性　大家又司
超越論的自由の可能性と必然性　安江茂三郎

◎教育學教授法專攻

ペスタロツチーの「隱者の夕暮」に就いて　李丙吉
石門心學について　亘節
教育的愛の本質を求めて　新井義彦
ナトルプの社會的教育學の一面の研究　二神輝一郎
美育書簡の解釋を中心として　前田博
ペスタロツチーの自然の道　篠原陽二

◎美學美術史專攻
中國詩歌の形式論的研究　馬貴臣
文學に於て藝術的なるもの——言語象徴を中心に——　水澤澄夫
周文派山水畫について　島田修二郎
Beethovens Symphonien の考察　主として音樂表現力の問題に就いて　張源祥
永德の花鳥金碧畫に於ける構圖法に就いて　土居次義
カントの美學　池田春樹
Heinrich Wölfflin に就て　伊藤卓治
美術史構成の背後に在る者　加藤一雄
カントの「美的判斷力批判」の梗概　諏澤太郎
音樂の作品と演奏　山邊知行
◎宗教學專攻
宗教に關する二三　苑武孝次郎
ヘーゲルの宗教哲學に就いて　關根敏
◎社會學專攻
社會學上より見たる日本現行法制　渡邊覺治
精神諸科學のディルタイによる基礎付けと社會學　今井榮二郎
階級鬪爭の社會學　丹澤次雄
◎佛教學專攻
初期佛教に於ける業輪廻思想に就いて　寺林潤
親鸞聖人の佛性觀　花田正夫
安慧の識轉變說（その唯識三十頌釋を中心として）　長尾雅人
日蓮教義の性質　岡田四郎
世親に於ける唯識思想と淨土思想　曾我新作
虛空藏菩薩の研究　山本匡夫